

## 平成29年度 ユーアンドアイ事業実績報告

### ◇事業所運営報告

#### 就労継続支援B型事業 定員40名

29年度上期より、新利用の方が増え定員を超える利用者数でしたが、11月移行支援廃止に伴い利用者の生活介護の利用の希望者が増え、12月時点で定員割れとなりましたが、1月以降現在B型の利用を希望される方が増えたため定員40名に達しています。

日々の生活状況を確認し、状況に応じた相談支援を行うことを心掛け、利用者の生活の安定を図るとともに、日中活動を通じて社会生活での充実感を得てもらい有意義な生活を送っていただけるよう支援をしました。

授産活動においては軽作業訓練を中心にを行い、また、移行支援時のノウハウを生かしながらB型利用者においても就労意欲が高まった利用者の方に対し、就業・生活支援センターなどと連携を図り就労の支援も継続しておこないました。

### ◇授産活動の報告

#### ■調理補助作業

##### 利用者2～3名 職員1名配置

**調理作業：**給食（昼食）の調理補助作業をかりんの利用者さんと一緒に取り組みました。

調理作業として食材の下拵え、盛り付け、配膳、洗い物、清掃までを段取りを組んで行い、担当職員からの指導・訓練としては、特に加熱料理（IHを使用）や包丁を使った作業においてはやけど・ケガに十分注意を払いながら取り組みました。

衛生面に気配りして作業を行い、毎年度行われる保健所の衛生講習会にも参加しました。

**喫茶作業：**昼休憩時に軽食とドリンクを提供。（各階への出前含む）

作業に取り組む利用者には丁寧な言葉づかいができるよう声掛けを行い、コミュニケーション能力の向上につながる支援を継続して行いました。

担当責任者：増田 真理子

#### ■3階 軽作業部（12月以降5階へ移動）

##### 利用者10～13名 職員2名配置

**作業内容：**和菓子の検品、包装、梱包作業、袋詰め、シール貼りなど

前年度に引き続きつるや製菓さんの作業を中心に訓練を行いました。

単月授産売り上げとして前年度比で下方傾向にありましたが、12月時点でするや製菓さんとの単価交渉（25%UP）と作業工程の見直しなどを行った結果、1月以降には売上を戻しております。

利用者の方は概ね例年通りのメンバーで継続してコミュニケーション能力や作業能力、作業効率が高まるよう指導、助言などの支援を行いました。

また、新利用者に対しては、一日でも早く作業場の雰囲気になれるように、他の利用者とのコ

コミュニケーションの状況を把握しながら、安心して利用できるよう支援を行いました。

健康面では、日常の体調確認と年に一度健康診断をすることで利用者の状態を把握し、作業において過剰な負担にならないよう継続した支援を行いました。

担当責任者：大久保 菜穂子 堀切 しのぶ

■ 4階 パソコン事業部 利用者 12～14名（12月以降 18～20名） 職員 3名配置  
販売部 利用者 3～5名 職員 1名配置（12月撤退）

作業内容：パソコン操作訓練、軽作業訓練、請求業務等の事務作業および訓練、冊子印刷、チラシ、エコ名刺印刷、年賀状印刷、ホームページメンテ等。

印刷に関しては例年通り名刺・年賀状を中心に外部より発注を受けたチラシ作成などを行いました。PC操作訓練はWord・Excelの検定試験を目指し受験され本年度はExcel1級を筆頭に合格者も出ております。また個々の能力の向上を把握し、事務作業の補助に取り組めるように訓練と支援を行いました。

軽作業に関しては、(株)NSから委託された作業を6階作業部と分担、前年度同様三和パッケージさんの作業と中心に行った。また移行事業部廃止に伴い利用者の合流もありましたが利用者全体が連携をしあえるように支援を行いました。

体調面・精神面を崩される方や、家庭事情で全日利用をすることが難しい利用者が多く1日当たりの利用者数は日々変化しております。体調などを崩される方に関しては生活相談支援を行って状況を把握、安定を図れるよう指導助言など支援を行いました。

担当責任者：奥田 峰士・横井 英司

■ 6階 軽作業部

利用者 13～14名 職員 2名配置

商品の検品、梱包、箱折作業など(N.S グリーン産商、TSP、明星印刷などの会社からの委託)

昨年に続き手摺ブラケットなど工業製品の検品などの定番作業を行った。継続して行うことで作業の段取りなど理解している利用者も多く、滞りなく取り組む事ができております。作業面においても効率を重視、全体的な売り上げとして予算と同等程度達成できており、4階作業部との作業工程の見直しをすることで年度末には売り上げの向上の兆しも見えております。

日常面や精神面で不安定さが出る利用者の方もあり声掛けや相談支援を行うことで安定を図っております。

担当責任者：石飛 辰哉・園田 華世